



2018年2月25日
2018年度第6号・通算24号

◇◇ 東京あおぞら連絡会事務局 ◇◇

発行責任者：大島文雄

Tel：03-6912-1656

Fax：03-6304-1418

医療費救済制度の財源負担を求め

～ 2・12 トヨタ総行動に参加 ～

内部留保還元せよ！ 社会的責任はたせ！

東京大気公害裁判のあの画期的な東京高裁和解実現の口火を切ったのがトヨタ総行動。

その後もトヨタの責任を問い、救済制度の財源負担を求め、毎回参加してきました。

とくに今年の2・12トヨタ総行動は、4月1日からの都条例「自己負担導入」を前にした重要な節目の行動であり、あらためて医療費救済制度の財源負担を強く求めました。患者会・連絡会代表に千葉あおぞら連絡会から3名を加え総勢25名が共に行動。豊田市内（山ノ手公園）の決起集会とトヨタ本社へのデモ行進に参加し、「トヨタは内部留保を還元せよ！社会的責任をはたせ！」とアピールしました。新宿駅～豊田市往復13時間余に及ぶハードなバス参加・日帰り行動でしたが、みんな楽しく交流しながら無事帰り着きました。ほんとうにお疲れさまでした！

（あおぞらニュース担当：清水 滯）



増田患者会事務局長 集会で「決意表明」

決起集会は榎松実行委員長（愛労連議長）の主催者あいさつで始まり、過去最高の売上（28兆5千億円）と利益（約2兆円）をあげているトヨタに対し、内部留保の還元・賃上げを求める行動となりました。

夫を過労自殺で奪われたトヨタ労働者の家族、単価切り下げに苦しむ下請け業者代表に続いて東京公害患者と家族の会代表として増田事務局長が決意表明。「自動車排ガスによって苦しむぜん息患者は、いま医療費救済制度をつくるために署名運動に取り組み、国会議員に働きかけている。ぜん息治療は良い薬ができ症状が安定するようになっているが、問題はこの薬が非常に高い。安心して治療を受けるにはどうしても医療費救済制度が必要。この財源をトヨタに負担してほしい。社会的責任をはたせ！」と訴えました。

増田事務局長は実行委員会代表と共に2月6日、トヨタと関連5社に要請行動をおこない、「新たな医療費救済制度創設」を申し入れました。また会場では名古屋・みなみ患者会の仲間と合流、公害総行動の国民署名を一緒に取り組みました。

バス車内交流で 大いに意見交換

怒りと要求をぶつけるトヨタ総行動参加の“もう一つの楽しみ”が往復のバス車内交流。今回も往路は自己紹介・活動交流に公害・地球懇の温暖化署名の訴えと「出前講座」

復路はアルコールも入って賑やかに感想を出し合う。なぜいま石炭なのか？いま労働組合の役割は？などお互いの意見に突っ込みが入り、喧々譁々の交流。バス車内の意見交換は、「苦しみの根っこはひとつ。怒りをひとつに！」を確め合う貴重な機会となりました。

■ミナマタ東京訴訟の鈴木裁判長らを忌避申立

★霞ヶ関裁判所前で宣伝行動（12：50～13：20）

3月28日に予定されている次回裁判期日まで続けます。

◇3月9日（金）◇3月14日（水）◇3月22日（木）